

科目名	言語教育メディア ・教材論特講	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現在、言語教育では印刷教材だけでなく、e-learning 教材やインターネット上の Web コンテンツ、ICT (Information and Communication Technology) の各種技術など、様々な教育メディアが利用されている。ICT は、学習教室を超えた異文化間の対話や学習者の自律的学習を可能にし、言語教育の可能性を広げている。本講義では、言語教育における ICT の有効活用を検討するために、インターネット上の教育活動の基盤と言われる「デジタル教材」に焦点を当て、その歴史や背景となる学習理論、活用の動向、デザイン論について学ぶ。さらに、言語教育のための教材内容のあり方について検討するために、バフチンの言語理論に基づいて開発された教科書（印刷媒体）を採り上げ、言語理論と具体的な学習デザインとの関係を探る。</p>		
到達目標	<p>前期の目標は、デジタル教材の歴史や背景にある学習理論に関する基礎的知識を修得し、第二言語習得分野での動向について説明できるようになること。また、デジタル教材のデザイン論を理解し、既存のデジタル教材を分析・評価できるようになること。</p> <p>後期の目標は、バフチンの言語理論に基づき開発された教科書を採り上げ、その基盤となったバフチンの言語観や言語習得観とこれまでの第二言語教育の視点との違いを理解し、論考できること。その上で、背景となった言語理論と教科書との関連性を整理し、言語教育の教科書として論考できること。</p>		
学修方法	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 基本教材 1 を読んでデジタル教材の歴史の変遷と第二言語習得における ICT 利用の流れについて整理し、デジタル教材を利用する際の要点について論考する。 基本教材 1 を読み、デジタル教材の設計や評価手法、事例の分析方法を理解し、その知識を基に、言語教育のために開発された既存のデジタル教材を分析・評価する。 <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 基本教材 2 を読んで、バフチンの言語理論における言語観、言語習得観とこれまでのものの視点の違いを理解し、それを基に、自分自身の言語観・言語習得観等について省察する。 基本教材 2 や参考文献読んで、バフチンの言語観・言語習得観と教科書の内容との関連性を理解し、言語教育用の教科書の中身のあり方について論考する。 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 1 締切：6月末 ・レポート課題 2 締切：9月課題提出締切日 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 1 締切：11月末 ・レポート課題 2 締切：1月課題提出締切日 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、独創性、構成、文章表現の妥当性、引用文献の適切性等
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<p>レポートは、草稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進めること。このため、草稿は最終提出の締め切り間際にならないように、早めに送ること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 山内祐平 編 教材名： 『デジタル教材の教育学』（東京大学版局，2010年） ISBN:978-4-13-052079-9 3,200円+税
	本書は、これまでのデジタル教材の歴史と基盤となる学習理論の変遷を辿り、近年における活用の動向について明らかにした上で、設計・評価の実際を教育学の観点を中心に解説するものである。理論的、体系的にデジタル教材に関する知識を学ぶことができる。
参考図書	吉田春世他編著『ICTを活用した外国語教育』（東京電機大学出版局，2008年） ISBN:978-4-50-154400-3 3,000円+税
履修上のポイント	デジタル教材の学習デザインは、背景とする学習理論や言語習得観によって異なる。基本教材を通して、それぞれの特徴をよく理解し、既存のデジタル教材を分析・評価すること。 レポート作成過程では、ピア・レスポンスによる自己の視点と他者の視点との交流を通して自分の考察を深めていただきたい。
レポート課題 1	第 I 部と第 II 部第 4 章を読んで、デジタル教材の形態とその背景にある学習理論の変遷、ならびに、第二言語習得における ICT 利用の流れについて整理し、言語教育でデジタル教材を利用する際に検討すべき点について論ずる。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：第 4 章の「まとめ」を参考にすること。
レポート課題 2	第 III 部を読みデジタル教材の設計・評価の手法を理解した上で、言語教育のための既存のデジタル教材を 1 つ選び、教材の概要（背景、目的、構成、使い方など）を説明して、利用者の視点から教材の評価について論ずる。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：採り上げるデジタル教材は語種を問わない。レポートの構成・内容は第 9 章、第 10 章を参照のこと。参考図書の第 11 章に日本語教育の教材例がある。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西口光一 教材名： 『第二言語教育におけるバフチンの視点 - 第二言語教育学の基盤として』（くろしお出版，2013年）ISBN:978-4-87-424604-7 2,800円+税
	本書は、長年の研究から「バフチンは第二言語の習得と教育の根本的な見方を再定式化するための代替的な言語観を複雑ではあるがはっきりと提示してくれている」と考えるに至った筆者が、「難物」であるバフチンの論考をもとに、言語理論と言語習得の関わりについてまとめたものである。バフチンの言語観とこれまで言語教育を支配してきた言語観の違いを示すと同時に、この考えを基に開発したいカリキュラムや教科書について解説している。
参考図書	西口光一著『NEJ：A New Approach to Elementary Japanese <vol.1> テーマで学ぶ基礎日本語』（くろしお出版，2012年）ISBN:978-4-87-424550-7 1,900円+税
履修上のポイント	バフチンは言葉や発話をどのように捉えているか（言語観）、言語習得すべき対象としてどのようなものを想定しているか（言語習得観）、それらはこれまでの言語教育で支配的だった言語観や言語習得観とどのように異なっているのかなどについて要点を理解すること。 ピア・レスポンスによる協働活動を通して考察を深めること。
レポート課題 1	基本教材 2 を読んで、これまでの言語教育で支配的な言語観に対するバフチンの批判と、バフチン自身の言語観、言語習得観のポイントを整理し、それに対する自分の考えを論じること。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：「ラング」や「ことばのジャンル」などをキーワードに、目次を参照にして要点をまとめること。
レポート課題 2	基本教材 2 と参考文献を読んで、レポート課題 1 で整理したバフチンの言語観・言語習得観と『NEJ』の各課の練習や活動との関連を検討し、この教科書に対する自分の考えを述べ、言語教育の教科書の内容のあり方について論考する。(3,000 字～4,000 字) 留意点 ：第 9 章を参考に、言語観、言語習得観との関連を検討する。